

■ 社会動向

- 少子・高齢社会の進展
- 市民価値観やライフスタイルの多様化
- 地方自治体の厳しい財政状況
- 都市間競争の激化、都市の差別化・個性化
- ボーダレスな国際社会
- 地球規模での環境問題

■ 現状調査を踏まえた課題（下線はアンケートで確認できた内容）

- < 歩行者 >
- 駅東西地区の往来者が自由通路に集中し、改札付近が混雑している
- < 自転車 >
- 需要に対応した駐輪場が不足、市民から設置要望が多い
 - 駐輪誘導や放置自転車対策等の継続的な対応が望まれる
 - 府中街道の車道部で自転車走行者が多く危険である
 - 商業施設付近は休日に自転車が多く増えて歩行者が歩きづらい
- < 自動車 >
- 京急川崎駅前は自動車交通が人の流れを分断している
 - 駅周辺の自動車交通に対する環境対策のあり方
- < バリアフリー化 >
- 駅広や駅施設内を含め地上や地下のバリアフリー設備が不十分
 - 街側から駅広へ向かう面的なバリアフリー化がなされていない
- < 駅前広場 >
- JR、京急とも十分な歩行空間がとれていないため混雑している
 - 放置自転車が多く、走行マナーが悪い
 - ホームレスが依然として多く、ごみも周辺に散在していて汚い
- < 景観 >
- 好印象を持つ人が多い反面、混雑・汚い・臭いなど悪い印象を持つ人もいる
 - 駅周辺の暗いイメージを持つ人が多い
 - ホームレス、ごみ、放置自転車への対応が不十分で都市景観を阻害

■ 将来動向から想定される課題

- < 歩行者 >
- 東西自由通路内で駅利用者の交錯状況が増え、混雑が増す
 - 府中街道アンダー部で歩行者が増え、自転車走行空間も含めて狭くなる
 - 駅前交差点の横断者が今以上に増え、滞留空間が狭くなる
- < 自転車 >
- 駅東西の往来者が増えることに対応した動線への対処が限定される
 - 駅周辺の自転車交通に対する環境対策のあり方
- < 自動車 >
- 駅東西の商業施設間を行き来する交通量が増え、道路渋滞が発生する
 - 駅周辺の自動車交通に対する環境対策のあり方
- < バリアフリー化 >
- バリアフリー法に適した整備や施設設置を地上・地下で実施する
- < 駅前広場 >
- 西口駅前広場に併せた東口駅前広場の再整備と交通機能の再編
 - バス利用者への利便性を確保する
 - 往来者が増え駅ビル BE 前の歩行空間が一層狭くなる
- < 景観 >
- 新しい川崎の顔づくり、都市景観デザインの検討が迫られる
- < 再開発 >
- 京急駅北街区の土地利用転換による高度利用化の検討

これまでのイメージを一新する風格
ある川崎の新たな顔づくりの実現

■ 駅周辺地区整備の基本方針

広域的拠点形成と地域連携のまちづくり

都市拠点としての整備と機能強化

羽田方面を含む臨海部地域との連携強化

地区内を往来しやすいまちづくり

駅東西地区の一体化、回遊性強化

良好な交通結節点整備

人と環境にやさしいまちづくり

人にやさしい、うるおいある都市空間づくり（バリアフリー、案内、安全、ゆとりある空間）

人と環境に優しい交通環境整備

少子高齢社会に対応した環境づくり

個性的で賑わいのあるまちづくり

川崎らしい街並み、景観形成（駅前広場、街路、沿道緑化）

身近にある賑わいと活力に満ちた商店街の形成

市民協働のまちづくり

エリアマネジメント導入によるまちづくり

川崎市まちづくりの基本目標

- 誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき
- ### 目指すべき都市構造
- 持続型社会を形成する「広域調和・地域連携型」都市構造
 - ・ 広域調和に基づくまちづくり
 - ・ 地域連携に基づくまちづくり
 - ・ 広域調和型と地域連携型のバランスのとれたまちづくり
- （出典：川崎市新総合計画 H17.3）

■ 上位計画等における駅周辺地区の位置付け

○ 今後の都市構造を考えるポイント

首都圏における位置付けや役割を的確に踏まえたまちづくりに取り組む。
地域に密着した身近なまちづくりを意識する

持続型社会を形成する「広域調和・地域連携型」都市構造の展開

○ 将来の都市構造における川崎駅周辺地区の位置付け

広域調和に基づくまちづくりに取り組むための拠点

- ・ 市民の生活行動圏を踏まえた市外の隣接都市との役割や機能の適切な分担、補完を図りつつ、民間活力を活かした個性と魅力ある拠点整備を進める。

地域連携に基づくまちづくりに取り組むための拠点

- ・ 地域生活ゾーンにおけるターミナル駅周辺地区での生活拠点の育成や地域生活ゾーン間の交通ネットワーク強化等を図る。

（出典：川崎市新総合計画 H17.3）

○ 川崎駅周辺地区の位置付け

- ・ 駅東口エリアは都市の表玄関であり、都心に相応しい中枢業務機能や広域的な商業機能を担う地域として整備する。
- ・ 駅西口エリアは広域的な都市拠点としての先端性や文化・芸術性と共に快適な都心定住を担う地域として整備する。
- ・ 川崎駅や駅ビル、地下街等は「回遊の基点」である。
- ・ 東西市街地の一体化と地上～地下レベルの歩行者動線の整備を図り、各拠点の整備効果を一体的に享受し得る仕掛けを施す。
- ・ 駅を中心に回遊性を高め、魅力ある商業空間を形成する。

（出典：川崎駅周辺市街地活性化基本計画 H12・3）